

# エコアクション21 ②

環境問題とどう向き合うか

環境マネジメントシステム（EMS）の国内規格で、全国的に認証・登録の動きが広がりにつつあるエコアクション21（EA21）。認証・登録事業などの本部機能を担う（財）地球環境戦略研究機関持続性センター・EA21中央事務局（東京都）の森下研事務局次長に、EMSの必要性やEA21の特性、課題などを聞いた。

## EA21中央事務局次長・森下研氏に聞く



EMSの必要性とEA21の有用性を語る森下研EA21中央事務局次長＝松江市朝日町、松江東急イン

「環境問題をどうみる。地球は病んでいる。便利さや豊かさを追い求めて大量生産と大量消費、大量廃棄を繰り返した結果、大気中の二酸化炭素濃度の上昇と深刻な温暖化を招いた。社会・経済システムと自然環境のバランスの崩壊だ。日本では、食品の年間

廃棄量は一千万トンを超え、コメの年間生産量より多い。われわれは、やりすぎた」

—京都議定書が今年から実質的に発効した。日本の企業はどう対処すべきか。

「日本の二酸化炭素排出量は米国と中国、EU、ロシアに次いで五番目に多い。また、日本は一人一日あたり44・4キログラムの廃棄物を利用し、13・8キログラムの廃棄物を

# 体系的な仕掛けで意識づくり 環境リスク管理の姿勢も大切

出す。この廃棄物のうち、家庭から出るのは約一キログラムほど。残りの多くは産業関連だ。地球人口は、二〇五〇年には九十億人に増える。各企業による対策は、もはや待たなし。子どもや孫に、いい環境を残すのは当然ではないか」

「思い通りの取り組みでは、環境負荷は減らせない。環境保護意識を組織に根づかせる、体系的な仕掛けが必要だ。また、事業所の総排水量などの環境情報は、水道代などの経営情報に転換できる。両方を把握すれば経費削減も可能だ。さらに、人間は必ずミスをする。それを前提にして、自社の環境リスクを管理する姿勢も欠かせない。

—EMSの意義は何か。

「思いつきの取り組みでは、環境負荷は減らせない。環境保護意識を組織に根づかせる、体系的な仕掛けが必要だ。また、事業所の総排水量などの環境情報は、水道代などの経営情報に転換できる。両方を把握すれば経費削減も可能だ。さらに、人間は必ずミスをする。それを前提にして、自社の環境リスクを管理する姿勢も欠かせない。



